

資本主義の終焉と歴史の危機

書籍紹介 1

水野和夫著 集英社新書 2014年3月刊 218頁

寺岡 国一

アメリカ、EU、日本の中央銀行は未曾有の金融緩和策をとっている。即ち大量のお札を刷って紙幣を市場に出している。この状況から資本主義の将来に不安と懸念を抱き始めた人にとっては面白い本である。

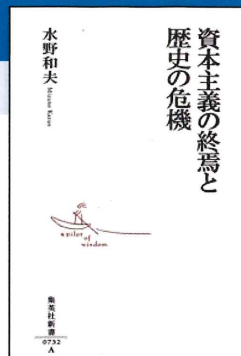
筆者の論点は次の通り。資本主義は「地理的・物的空間」を拡大することによって経済を発展させてきた。16世紀に始まったスペインの交易拡大、17世紀初頭から始まったイギリスの植民地政策が典型例である。「地理的・空間的」拡大が困難になると資本の利潤率が低下し、長期利率の低下が続く。日本の失われた20年の長期国債の金利がそれである。

エネルギー資源の高騰を伴って実体経済が停滞すると資本の利潤率を上げることが難しい。

そこで資本主義の延命策として考え出したのが「電子・金融空間」における経済活動の創造である。

世界のGDPは年間約7400兆円、「電子・金融空間」で取引される金融経済の規模はその3-4倍。この金融資産は、単なる帳簿上の電子情報数字としてあるかどうかも確認できない形で存在している。主要国の中央銀行は不確かな形で存在している金融資産の目減りが実態経済に影響を及ぼさないように必死になってお札を刷っているのが現在の資本主義経済の姿と筆者は憂いている。

経済と投資にご興味のある方は一読を。



思いやりはどこから来るの? - 利他性の心理と行動

書籍紹介 2

監修 日本心理学会 高木修・竹村和久編 誠信書房

2014年3月刊 206頁

中西 美和

東日本大震災時に、世界各国から日本へ支援の手が差しのべられ、経済的に余裕があるとはいいたい国や人々からも、多額の義援金が送られた事実には、心震える想いがした。なぜ、人は、このように自分の利益だけを考えて利己的に行動するのではなく、他者や他国のことを思い、利他的に行動するのであるか。

本書では、心理学をはじめ、工学、理学、医学、経営実務者らの観点から、このような利他的行動の解明を試みている。本書の構成は、ビジネス場面や大震災時に観察された利他的行動の事例の紹介からはじまり、利他的行動が生じる過程、利他的行動の獲得過程、進化論の観点から、利他的行動をとる人が存在する理由、そして、脳神経学の観点から、利他的行動に関与する脳の部位と

作用機序について、最新の知見がまとめられている。興味深いことは、個人 vs. 個人、集団 vs. 個人、集団 vs. 集団のいずれの場合においても、多少の犠牲を払ってでも、利他的に行動する方が、利己的に行動するよりも、最終的に相互に恩恵をもたらすという分析結果が、学問領域を問わず、共通して導かれていることである。さらに、利他的行動は、人間特有である点も、深く考えさせられる。このような利他的行動の意義と恩恵に関する知見は、国際共生に関わる人々を勇気づけてくれるように思われる。



研究会開催報告

平和・人権研究会 (Project 1)

- 第32回 2013年10月23日 報告者：竹澤 由記子 (大阪女学院大学非常勤講師)
歴史からみたノルウェーの「外交力」について
- 第33回 2013年12月11日 報告者：前田 美子 (大阪女学院大学)、小野 由美子 (鳴門教育大学)、中村 聡 (広島大学)
「青年海外協力隊に参加した現職教員の意識変容に関する研究—参加者のプロフィールとA教諭の事例—」
- 第34回 2014年1月15日 報告者：元 百合子 (大阪女学院大学特任講師)
「非市民 (外国人) の人権の国際的保護—国際基準の進展」
- 第35回 2014年5月7日 報告者：黒澤 満 (大阪女学院大学教授)
「核軍縮への人道的アプローチ」
- 第36回 2014年6月11日 報告者：香川 孝三 (大阪女学院大学教授)
「労働分野からみる人間の安全保障」
- 第37回 2014年10月15日 報告者：前野 遼子 (大阪女学院大学大学院博士前期課程)
「The reinterpretation of Japan's Constitution to allow Japan to exercise the right of collective self-defense」
- 第38回 2014年10月15日 報告者：西井 正弘 (大阪女学院大学教授)
「国連人権理事会普遍的定期審査 (UPR) の実態—トルコの第1回審査を中心に—」

Research on Language Learning (Project 2)

- 第2回 2014年1月28日 (火) 29日 (水) 31日 (金)
Series Title: iWeek iPad iLunch